

SMX & リンクス プレスリリース 補足資料

2021年4月21日

住友商事マシネックス株式会社
ビジネスイノベーション推進室

01. リンクス 事例から得た教訓

テクノロジーに関する投資と失敗の事例は数多く存在します
リンクスは、「世の中の失敗事例からの教訓」と「リンクス事例からの教訓」から学びました

世の中の失敗事例からの教訓

- 事業の一部としてのITプロジェクトへの主体性の欠如により、高いベンダー依存度と難解なベンダーマネジメントに非効率を抱え込む

リンクス事例からの教訓

- ウォータフォール型で創るべきことと、ユーザテストで創るべきものの線引きが必要
- ユーザが求める物を見つけることを見つけるには、ユーザの巻き込み方を事前に練る必要がある

02. 旧来型Slerモデルの課題

課題①：市場投入までの時間と費用（膨大な時間と費用）

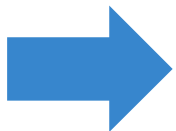
プロダクト・サービスを市場に投入するにあたって、構想・仕様詰めに多くの時間とお金を費やし、初期の段階で必要な問題実証やユーザテストを行わずにプロジェクトを進める

課題②：市場との距離感（タイムラグ）

プロダクト・サービスが市場の要求スピードに追従できず、自社のプロダクト・サービスが競争力を失う

課題③：品質向上プロセス（品質改善）

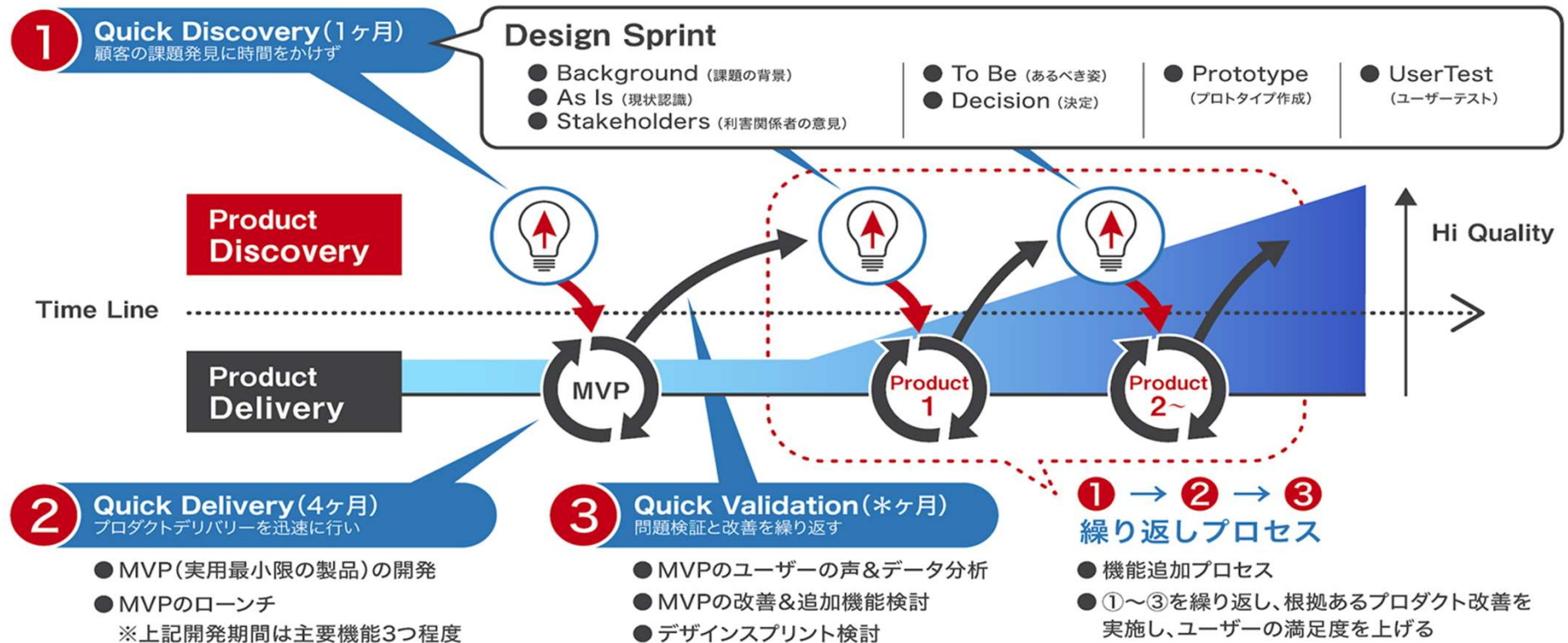
仕様通りにプロダクトが完成したら保守運用へ移り、ユーザの声に応えながらプロダクト・サービスの品質改善を継続的に繰り返すプロセスが存在しない



リアルタイム性が要求される現在の市場では、
これまでのSlerモデルでは通用しなくなっており、
現在のやり方を継続すると
日本企業はこれから急激に競争力を失っていくことになる

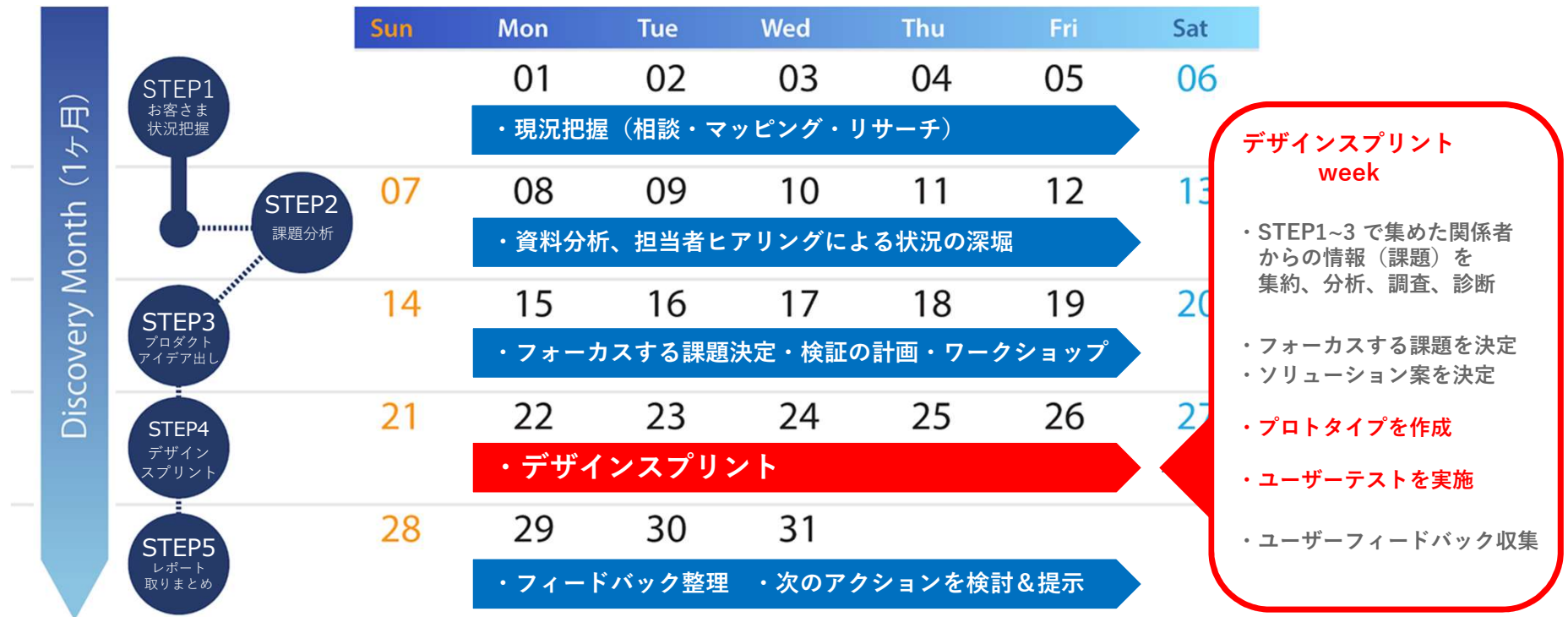
03. プロダクトディスカバリー ～アジャイル手法の第一歩～

短時間で、適切なプロダクトを発見し、ローンチするため、1回のDiscovery(DesignSprint)を1ヶ月、Delivery(MVP)を標準4ヶ月とし、繰返すことで品質を向上します。



04. プロダクトディスカバリー ～1ヶ月の流れ～

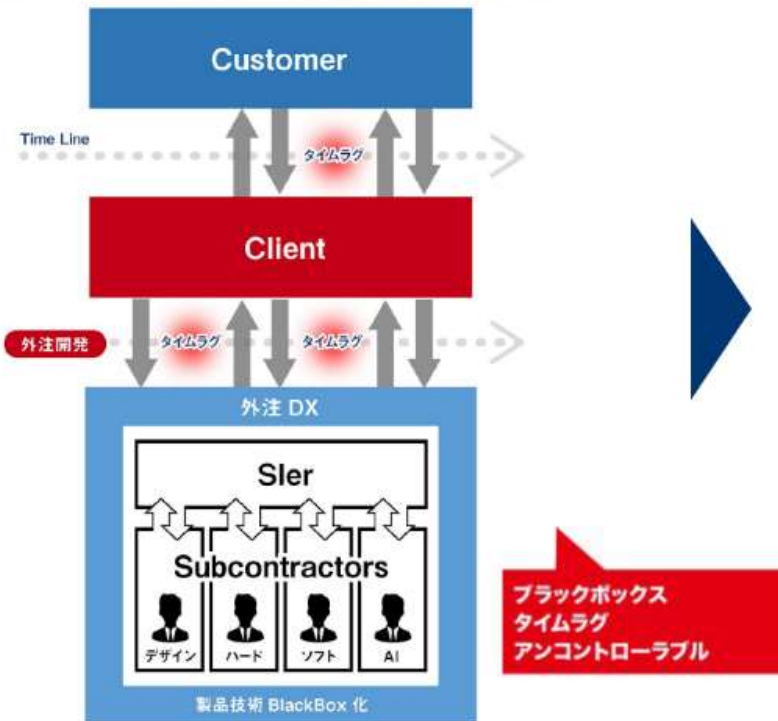
1ヶ月のDiscovery Monthでは、以下のスケジュールを想定して実施していきます。
特にデザインスプリント（1週間）はほぼフルタイムでのコミットメントが必要になります。



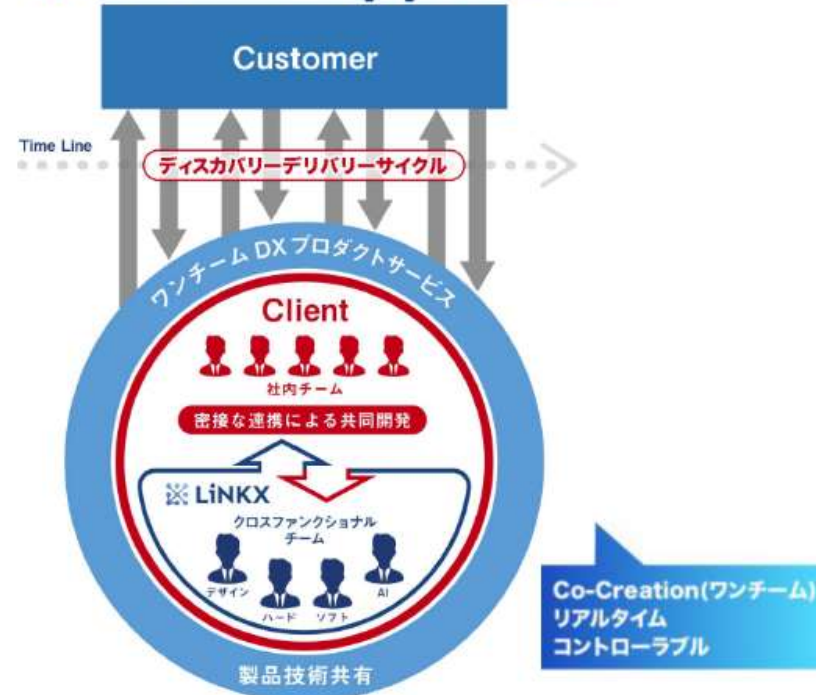
05. リンクス “One Team” Approach

リンクスはお客さまとワンチームでプロダクトを創り、お客さまの内製的な課題解決力を高めるとともに、お客さま主体でのアジャイル開発体制の構築を実現します！

Normal Approach

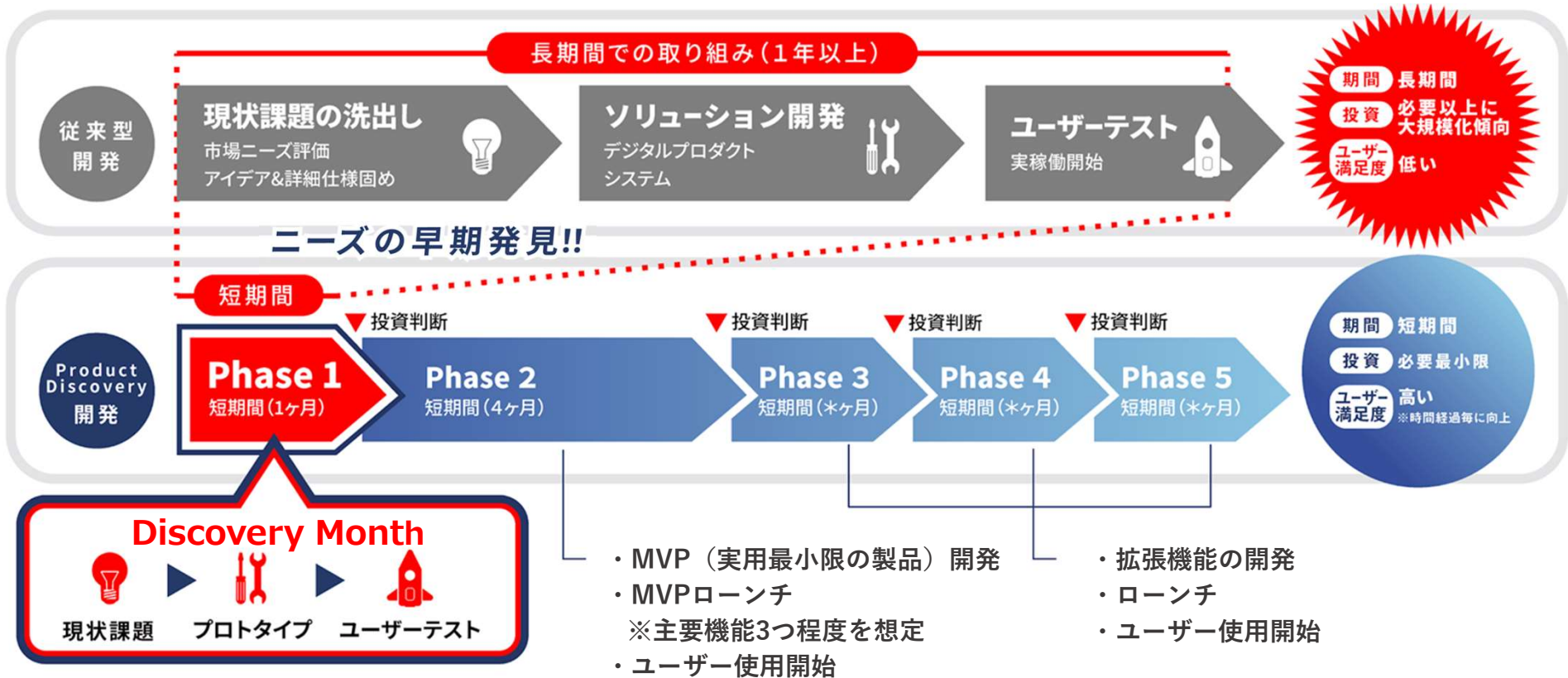


LiNKX Approach



06. なぜプロダクトディスカバリーが有効か？

短期間にプロトタイプを使い、ユーザテストまで行い、ユーザニーズを早期に発見。
時間と資金を無駄にせず、ソリューション（デジタルプロダクト、システム）構築がスタート可能！



Fin.